

職業訓練指導員の業務とその構造

—職業訓練指導員の業務調査結果の因子分析から—

The Content and The Structure of Vocational
Training Instructor's Work

— Factor Analysis of Investigation Result of Vocational
Training Instructor's Work —

森 和 夫

Kazuo MORI

職業訓練指導員の業務とその構造

－職業訓練指導員の業務調査結果の因子分析から－

森 和 夫

1. 問題の設定－職業訓練指導員の業務内容とその分類－

時代に対応した職業能力開発が求められるが、その質的充実は職業訓練指導員の力量に依存しているといつてよい。職業訓練指導員の業務は「技術革新の進展」、「社会の動き」、「地域の要望、企業ニーズの変化」、「能力開発施設の再編整備の推進」、「学習者の多様化」等のインパクトによって多大な影響を受けていると考えられる。田中・村瀬はこれらの変化から引き起こされる諸点について指摘し、在職者訓練を担当する職業訓練指導員の専門性として「能力開発専門性」を提唱し、この専門性が生じる要因として、①訓練対象者の違いによる業務の差異の発生、②個々の地域・労働者に合わせたコース開発の必要性、③教えること以外の業務が主力となること、④教える方法は開発的方法になることをあげている⁽¹⁾。

これまでも職業訓練指導員の業務内容について論じられてきてはいる。しかし、その多くは抽象的な内容であつて具体的に論じたものは少ない。「職業訓練指導員の業務指針」(昭和37年6月6日訓発第191号、都道府県知事・雇用促進事業団理事長あて労働省職業訓練局長通達)及び「職業訓練における指導の理論と実際」では指導員の業務に次の内容を挙げている⁽³⁾。①職業訓練のしくみ、②訓練計画、③指導の準備、④指導の進め方、⑤教材の活用、⑥試験、⑦安全衛生、⑧訓練生の把握、⑨

生活指導。「職業訓練指導員の業務調査」は今日の状況をふまえて職業訓練指導員の業務を再構築するための基礎資料を得ようとして行われたものである⁽⁴⁾。この結果、現在の職業訓練指導員の業務範囲の拡大状況が明らかにされた。その方向は従来の「指導の実施と評価」に「職業能力開発の企画と実施」が付加されたものとなっている。これは田中・村瀬らが指摘した能力開発専門性に相当している。「能力開発専門性」の具体的な内容は、要望や動向を適切に捉える力量が中核にあり、「訓練ニーズの把握」、「コース設定」のような具体的展開に必要な力量が必要となることが明らかになった。指導場面では受講者の「個別ニーズに対応」し、「指導方法を工夫」することが求められ、「開発的指導」が必要と考えられた。そして、「能力開発専門性」の養成は必ずしも組織的・体系的に行われているとは言いがたい状況にあり、今後の重要な検討課題であると指摘した⁽⁵⁾⁽⁶⁾。

この調査では指導員養成体制のあり方を検討することが直接の目的となっており、職業訓練指導員の業務のトレンドについては論述しているが、能力論的な視点からその業務の構造については検討されていない。従って、今日の職業訓練指導員の業務の内容とその構造についてこれまでの論述でよいかどうかは確証を得ていないといってよい。そこで、調査で得られたデータに多変量解析を適用してこの点を明らかにすることにした。

2. 研究方法

「職業訓練指導員の業務調査」は職業訓練指導員を調査対象にして業務内容、業務時間、業務負荷、業務頻度、業務動向、業務に必要な能力・資質を調査している。調査方法はヒヤリング調査、カード調査、質問紙調査の3つの方法によって行われた。質問紙調査では指導員業務の過去、現在、未来についてどう変化すると考えられているかを明らか

にしようとした。この質問紙では、表1に示した指導員業務の5分野33項目について重要度、頻度、負荷のそれぞれを過去、現在、未来ごとに5段階評価で回答させている。

表1 指導員業務の5分野

分野	内容
第1分野 [施設の体制整備]	1. 訓練体制整備の企画 2. 訓練施設の将来構想 3. 各種運営会議の企画と運営 27. 予算の編成 28. 機器・設備の補修と拡充
第2分野 [コース設定]	4. 訓練ニーズの把握 5. コース設定 6. 施設・機器の整備計画 30. 能力開発への要望の把握 31. 企業や地域の課題への援助 32. 業界や地域等との意見交流 33. 個人の能力開発の企画
第3分野 [指導の準備]	7. 必要な学習項目の設定 8. 訓練プログラムの作成 9. 訓練の場所と物の準備 10. プログラムの運営
第4分野 [指導の実施と評価]	11. 専門内容の教材研究 12. 専門内容や新技術の学習 13. 訓練教材の作成 14. 指導案作成と教える準備 15. 授業の実施 16. 効果的な指導方法の工夫 17. 評価結果に応じた個別指導 18. 評価用具と評価実施準備 19. 評価・評定の実施 20. 訓練の改善
第5分野 [学習者への対応]	21. 学習者の環境や個性を把握 22. 学習者の課題の対応 23. 学習者に関する事務処理 24. 行事の企画 25. 行事の実施・運営 26. クラブやサークル指導 29. 募集や選考

調査対象は10年以上の訓練実績を持つ22施設を選定している。調査は1993年10月～1994年2月に行なわれた。質問紙の回収枚数は309枚であった。今回の分析対象としたデータは無答が極めて少ない18施設の257枚である。回答数の内訳を表2に示した⁽⁷⁾。

表2 分析対象データ

分類	施設名称	施設数	回収枚数	有効データ数
雇用促進事業団立施設	職業能力開発促進センター	4	71	63
	職業能力開発短期大学校	1	18	18
都県立施設	長野県立技術専門学校	1	10	9
	東京都立職業技術専門校	2	24	24
	神奈川県立高等職業技術校	2	30	28
障害者施設	国立障害者職業能力開発校	2	19	18
	日本障害者雇用促進協会立施設	1	12	12
企業内教育施設	A 社技能専修学院	1	14	12
	B 社研修センター・短大校	1	38	38
	C 社研修所	1	14	14
	D 社研修センター	1	11	7
	E 社短大校・海外研修センター	1	14	14
合計		18	275	257

分析方法は次のようにして行った。過去、現在、未来の各データについてピアソンの相関係数を求め、これを基に因子分析を行った。因子分析方法はセントロイド法によって行い、バリマックス法によって軸の直交回転を行った。得られた結果に基づいて各サンプルごとの因子得点を計算し、この得点を基礎にしてクラスター分析を適用した。クラスター分析の方法は階層的方法（重心法）を用いている。変数相互の相関係数からクラスター化した。表3に変数リストを示した。

3. 結果

3-1. 指導員業務を構成する因子

表4は現在の業務について重要度を評価した結果の相関行列を示して

いる。表中の数値は相関係数である。この相関行列を基礎にして因子分析を行った。

表5はその結果を示している。表中の数値は因子負荷量を示している。

表3 変数リスト

変数番号	内容
1	訓練体制整備の企画
2	訓練施設の将来構想
3	各種運営会議の企画と運営
4	訓練ニーズの把握
5	コース設定
6	施設・機器の整備計画
7	必要な学習項目の設定
8	訓練プログラムの作成
9	訓練の場所と物の準備
10	プログラムの運営
11	専門内容の教材研究
12	専門内容や新技術の学習
13	訓練教材の作成
14	指導案作成と教える準備
15	授業の実施
16	効果的な指導方法の工夫
17	評価結果に応じた個別指導
18	評価用具と評価実施準備
19	評価・評定の実施
20	訓練の改善
21	学習者の環境や個性を把握
22	学習者の課題への相談と対応
23	学習者に関する事務処理
24	行事の企画
25	行事の実施・運営
26	クラブやサークル指導
27	予算の編成
28	機器・設備の補修と拡充
29	募集や選考
30	能力開発への要望の把握
31	企業や地域の課題への援助
32	業界や地域等との意見交流
33	個人の能力開発の企画

因子数の決定は固有値の抽出因子数に対する逓減傾向から判断して4因子とした。因子軸の回転は直交回転とし、セントロイド法を用いた。この表は回転後の因子負荷行列である。太字の数値は0.4以上の値を示している。0.5以上の負荷を持つ変数から各抽出因子の解釈を行った。

第1因子は変数番号11～20を中心に負荷が高い。具体的には専門内容の学習や教材研究、教材作成、効果的な教え方の工夫などである。また、変数番号17～20の評価と改善に関する内容にも負荷している。この結果、第1因子は「指導と評価因子」と解釈できる。第2因子は変数番号19, 21～26で負荷が高い。学習者への対応と評価や行事などの内容に負荷する。この因子は「学習者対応因子」と解

表4 現在の職業訓練指導員業務の重要度の相関行列

変数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
2	.5353															
3	.4500	.5453														
4	.4300	.3738	.3195													
5	.3989	.4977	.3349	.5493												
6	.2607	.4160	.2258	.3863	.3598											
7	.3883	.4056	.2196	.5008	.5387	.4734										
8	.2450	.2852	.1676	.4786	.5095	.4011	.5053									
9	.2180	.2342	.2424	.3264	.3183	.4554	.3601	.3969								
10	.1799	.1905	.2501	.2432	.3107	.2680	.2385	.4853	.3902							
11	.2063	.3341	.1664	.2826	.3797	.3530	.4153	.3144	.3769	.2031						
12	.2090	.3149	.1761	.2846	.3555	.3847	.4055	.3072	.4206	.1548	.7002					
13	.1651	.2981	.1214	.2392	.3790	.3600	.4104	.3245	.4697	.1594	.5927	.6443				
14	.1577	.2847	.1658	.2641	.4005	.2818	.4323	.4028	.3926	.2244	.5677	.5797	.5880			
15	.0714	.0720	.1200	.2431	.1693	.1804	.2993	.2233	.2987	.1040	.3826	.4302	.4211	.4706		
16	.1074	.1806	.1060	.2322	.3094	.3153	.3762	.3930	.3801	.2347	.5212	.5800	.5455	.6441	.5225	
17	.0858	.1768	.0915	.1783	.1917	.3185	.3029	.2874	.3128	.2404	.3602	.3817	.3993	.4746	.4428	.5516
18	.1208	.2231	.2447	.1584	.2213	.3251	.2800	.2843	.2671	.1962	.2570	.3172	.3501	.1179	.3523	.4181
19	.0917	.1415	.1226	.2144	.2080	.2822	.2078	.3255	.2696	.2191	.2959	.2875	.2368	.3974	.3747	.4333
20	.2108	.2946	.1663	.3157	.3555	.3667	.4196	.4620	.2923	.2253	.4743	.4745	.4414	.5067	.2694	.5796
21	.1349	.1907	.1661	.1971	.0867	.2338	.2532	.2414	.2411	.2509	.2088	.1923	.2560	.3107	.3665	.3653
22	.0600	.1430	.1527	.1328	.1067	.2638	.1892	.2156	.2877	.1773	.2573	.2630	.1907	.3043	.3673	.3759
23	.1391	.2215	.2693	.1409	.1612	.2562	.1491	.2381	.3029	.3043	.1287	.1470	.1656	.2335	.2237	.2592
24	.2394	.1844	.2971	.1712	.0939	.1960	.0803	.2305	.2128	.2767	-.0165	.0388	.0190	.1236	.0095	.0874
25	.1617	.1451	.2524	.1105	.0586	.1901	.0701	.2456	.2036	.2937	-.0218	.0500	.0210	.1553	.0788	.1369
26	.1319	.0260	.1378	.0601	-.0746	-.0005	.0503	.0375	.0270	.0255	-.0108	.0049	-.0732	.0285	.0439	.0422
27	.3106	.2469	.2869	.1170	.3737	.3474	.2744	.4227	.2901	.2339	.2639	.2379	.1040	.2594	.2303	.3034
28	.2263	.3625	.2076	.2658	.3253	.5466	.3063	.3302	.3960	.2475	.3797	.4192	.3533	.4071	.2591	.4284
29	.2989	.3498	.3250	.2278	.2512	.2708	.2432	.2850	.2356	.2716	.1920	.1571	.1724	.1932	.1654	.1902
30	.3308	.4136	.3505	.2822	.2970	.3111	.2228	.2632	.2084	.3033	.1757	.1989	.1623	.1132	.1216	.1478
31	.2992	.3601	.2966	.3120	.3161	.3089	.2469	.1985	.2299	.1416	.2383	.2485	.2324	.2031	.1623	.2353
32	.3047	.3963	.3064	.3627	.2685	.3581	.2830	.2521	.3236	.2523	.2227	.2454	.2471	.1789	.2340	.2281
33	.3326	.3176	.3277	.3789	.2378	.2791	.2295	.2141	.1904	.1215	.1245	.1505	.0791	.1362	.2106	.1793

変数	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
18	.6724															
19	.6132	.6895														
20	.4603	.4995	.4293													
21	.4853	.4894	.5062	.4297												
22	.5318	.4983	.5490	.3872	.7191											
23	.4844	.4745	.4632	.2843	.5651	.6214										
24	.3228	.3130	.2876	.2155	.4411	.3524	.4623									
25	.3709	.3415	.3705	.2175	.4789	.3978	.5015	.8390								
26	.1742	.2067	.2425	.1365	.3483	.2764	.3161	.4418	.4871							
27	.2401	.2753	.2708	.3610	.1822	.2682	.2882	.2545	.1798	.1705						
28	.3501	.3730	.3357	.4284	.2637	.3534	.3148	.1924	.1845	-.0469	.3900					
29	.2283	.2483	.1875	.2793	.3134	.3261	.3216	.2727	.2390	.1945	.4200	.3214				
30	.1210	.1879	.1050	.2519	.1293	.1445	.1976	.1989	.1334	.0856	.2252	.4021	.5251			
31	.2960	.2960	.1687	.3360	.1496	.1805	.2003	.1817	.1213	.0537	.2313	.3877	.4087	.5692		
32	.2196	.2335	.1355	.2500	.2189	.2046	.2137	.2317	.1916	.0601	.2080	.3899	.4513	.5580	.6376	
33	.2304	.2573	.2147	.3098	.3524	.3162	.2643	.2638	.2194	.1205	.2939	.3803	.3831	.4872	.5417	.6185

積できる。第3因子は変数番号29～33に負荷している。能力開発への要望把握、企業や地域課題への援助、個人の能力開発企画などに負荷することから「能力開発援助因子」と解釈した。第4因子は変数番号1,

4～5, 7～8のコース設定、施設の体制整備などに負荷している。

表5 現在の指導員業務の因子負荷行列

変数	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
1	0.0252	-0.1037	0.3464	-0.5369
2	0.1721	-0.0717	0.4263	-0.4994
3	0.0010	-0.2199	0.3732	-0.4205
4	0.2266	-0.0808	0.2787	-0.5666
5	0.3348	0.0119	0.2133	-0.6196
6	0.3762	-0.1434	0.2969	-0.3782
7	0.4445	-0.0423	0.1631	-0.5068
8	0.3717	-0.2119	0.0891	-0.5308
9	0.4329	-0.1745	0.1530	-0.3380
10	0.1637	-0.2818	0.1009	-0.3949
11	0.7087	0.0623	0.1175	-0.2419
12	0.7259	0.0405	0.1298	-0.2234
13	0.7149	0.0513	0.0925	-0.2024
14	0.7290	-0.1268	0.0284	-0.2155
15	0.5932	-0.1308	0.0284	0.0531
16	0.7576	-0.1537	0.1302	0.0851
17	0.6036	-0.4781	0.0877	0.0728
18	0.5286	-0.4951	0.1256	0.0458
19	0.5057	-0.5402	0.1875	0.0429
20	0.5797	-0.2562	0.0590	-0.1968
21	0.3538	-0.6664	0.2056	0.0685
22	0.4109	-0.6203	0.1586	0.1535
23	0.2244	-0.6661	0.1927	-0.0292
24	-0.1087	-0.7880	0.1820	-0.2469
25	-0.0474	-0.8365	0.1110	-0.1729
26	-0.0818	-0.5477	0.0318	-0.0073
27	0.2270	-0.2519	0.0251	-0.3802
28	0.4495	-0.1568	0.4127	-0.1883
29	0.1094	-0.2769	0.5260	-0.1990
30	0.0568	-0.0819	0.6947	-0.2238
31	0.1885	-0.0620	0.7359	-0.0932
32	0.1539	-0.1027	0.7411	-0.1543
33	0.0901	-0.2275	0.7030	-0.0798
寄与率 (%)	17.6	13.0	10.8	9.3

この因子は「コース企画因子」と考えられる。因子寄与率を見ると、これらの4因子で50.6%を説明する。第1因子と第2因子で30.6%を説明している。

同様の処理を過去と未来のデータについても実施した。表6はその結果を示している。表中の数字は因子負荷量の絶対値の10倍を切り捨てたものである。例えば、「7」とあるのは因子負荷量の絶対値が「0.7」であることを示している。0.1以下は空欄にしている。また、網部分は0.5以上を示している。表5をこの表記方法で示したものが

表 6 指導員業務の重要度の因子負荷量の変化

現在					過去					未来				
No.	F1	F2	F3	F4	No.	F1	F2	F3	F4	No.	F1	F2	F3	F4
1			3	5	1			4	6	1			5	2
2			4	4	2			5	4	2			5	2
3		2	3	4	3			3	5	3	2		4	2
4	2		2	5	4	2		3	6	4			6	2
5	3		2	6	5			2	7	5			6	2
6	3		2	3	6	3		3	5	6	3		6	2
7	4			6	7	4			5	7	3		3	
8	3	2		5	8	3		2	6	8	3	2	4	
9	4			3	9	4		2	3	9	4		3	
10		2		3	10				4	10		3	3	
11	7			2	11	6			3	11	6			
12	7			2	12	7			2	12	6			
13	7			2	13	7			2	13	7			
14	7			2	14	7				14	6			
15	5				15	6				15	5			
16	7				16	7				16	6			
17	6	4			17	5	5			17	5	4		2
18	5	4			18	5	5			18	5	4		
19	5	5			19	5	5			19	4	4		
20	5	2	2		20	6	2		2	20	5	2		
21	3	6			21	4	6			21	3	6		2
22	4	6			22	3	6	2		22	3	5		2
23	2	6			23		6	2		23	2	6		2
24		7		2	24		7	2	2	24		8		
25		5			25		8			25		8		
26		5			26		5			26		5		
27	2	2	2	3	27		2	2	4	27	2	2	4	
28	4		4		28	3	2	4	2	28	4			3
29		2	5		29		2	6		29			2	3
30			6	2	30			7	2	30			2	5
31			7		31			7	2	31				6
32			7		32		2	7	2	32			2	7
33		2	7		33		2	7		33		2		6
%	17.6	13.0	10.8	9.3	%	16.7	13.2	12.8	11.6	%	15.3	12.6	8.9	8.5

表 6 の左端の「現在」の表になる。これらの過去，現在，未来の表を比較するとほとんど差が見られないことがわかる。第 1 因子は過去，現在，未来を通じて第 1 因子（因子寄与率が最大の因子）として抽出される。このようにして過去と現在は全く同じように因子が抽出される。しかし，未来については F 3 と F 4 の順位が入れ替わっている。つまり，寄与率の大きさが逆転していることを示している。累積寄与率は過去が

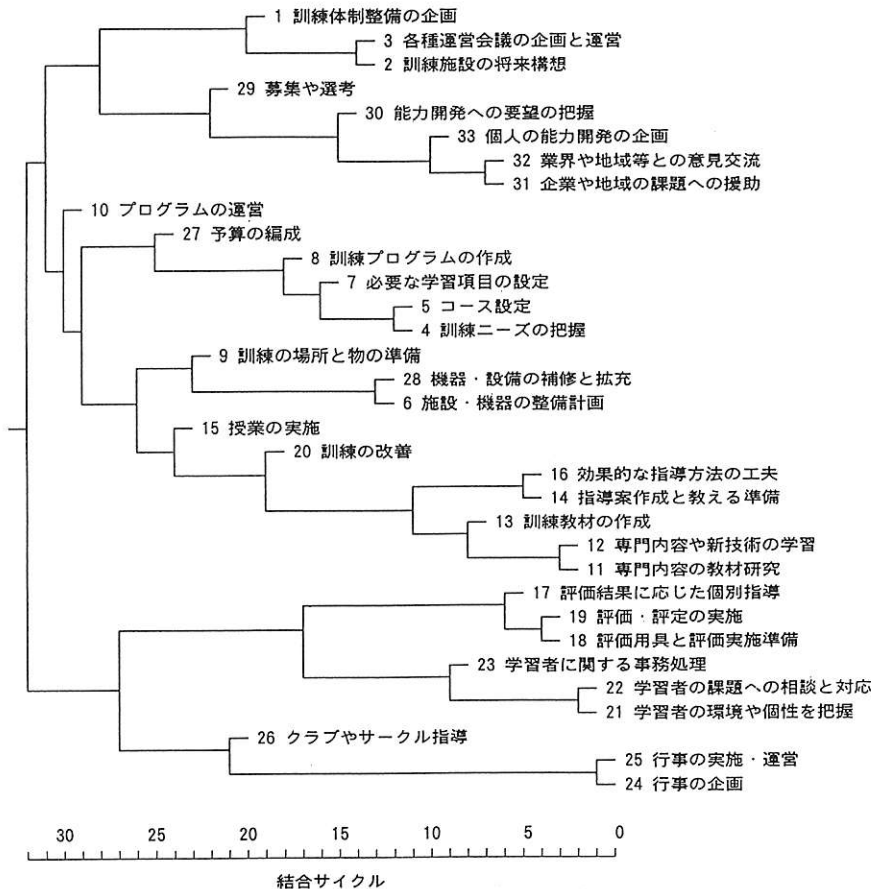


図1 現在の指導員業務の内容の構造

54.4%，現在が50.6%，未来が45.3%となり，減少している。このことはこれらの4因子では説明できない部分が増加していることを意味している。別の表現で言えば，過去についての見解は一致しているが，未来については一致度が低下することを裏付けている。

表7は因子別に見た因子負荷の変化を示している。指導と評価因子で

は11～18, 20の変数でいずれも高い負荷を持っている。この因子の主要な構成部分と捉えることが出来る。変数4, 5, 3は未来では負荷が少なくなる。同様にして、学習者対応因子では変数番号21～26が中心的な部分と考えられる。能力開発援助因子では30～33が中心部分であり、コース企画因子では1, 4, 5が中心部分であるといえる。能力開発援助因子とコース企画因子は共に中心的部分をのぞく内容の変動が大きく現れている。換言すれば、周辺部分の内容が時期によって異なるといえる。能力開発援助因子の変数番号1～6は時期の進展に伴って負荷量を減じているのは注目に値すると言えよう。

3-2. 職業訓練指導員業務の構造

職業訓練指導員の業務の階層構造を相関行列から描いてみると図1のようになる。この図は表4の値を基にクラスター分析した結果である。変数間の相関の高い値から順次結合させたものである。横軸に結合サイクルを示した。変数の数は33あることから結合サイクルは32で完了する。図の右端で結合する（結合サイクルの少ない値）ものは相関が高く、左端で結合するものは相関が低いことを意味している。

大きくは3つのクラスターに分けられる。上から順に第1クラスター（1～3, 29～33）、第2クラスター（4～16, 20, 27, 28）、第3クラスター（17～19, 21～26）と命名して検討したい。比較的相関の高い、結合サイクルの少ない変数をもつクラスターは第3クラスターである。このクラスターは2つの主要なサブクラスターに分かれる。学習者への対応と評価が結合したサブクラスターと行事のサブクラスターである。両サブクラスター間の距離は遠く、関係は疎である。評価・評定の考え方は学習者への指導との関係で考えられており、指導の改善やコース設定などとは距離が離れている。

第2クラスターは指導の実施と機器や場所の準備、コース設定とプロ

表7 因子ごとの因子負荷の変化

指導と評価因子				学習者対応因子				能力開発援助因子				コース企画因子			
No.	過去	現在	未来	No.	過去	現在	未来	No.	過去	現在	未来	No.	過去	現在	未来
1				1				1	4	3	2	1	5	5	5
2				2				2	5	4	2	2	4	4	5
3				3		2	2	3	3	3	2	3	5	4	4
4	2	2		4				4	3	2	2	4	6	5	6
5		3		5				5	2	2	2	5	7	6	6
6	3	3		6				6	3	2	2	6	5	3	
7	4	4	3	7				7				7	5	5	3
8	3	3	3	8		2	2	8	2			8	6	5	4
9	4	4	4	9				9	2			9	3	3	3
10				10		2	3	10				10	4	3	3
11	6	7	6	11				11				11	3	2	
12	7	7	6	12				12				12	2	2	
13	7	7	7	13				13				13	2	2	
14	7	7	6	14				14				14		2	
15	6	5	5	15				15				15			
16	7	7	6	16				16				16			
17	5	6	6	17	5	4	4	17		2		17			
18	5	5	5	18	5	4	4	18				18			
19	5	5	4	19	5	5	4	19				19			
20	6	5	5	20	2	2	2	20		2		20	2		
21	4	3	3	21	6	6	6	21			2	21			
22	3	4	3	22	6	6	5	22	2		2	22			
23		2	2	23	6	6	6	23	2		2	23			
24				24	7	7	8	24	2			24	2	2	
25				25	8	8	8	25				25			
26				26	5	5	5	26				26			
27		2	2	27	2	2	2	27	2	2		27	4	3	4
28	3	4	4	28	2			28	4	4	3	28	2		
29				29	2	2		29	6	5	3	29			2
30				30				30	7	6	5	30	2	2	2
31				31				31	7	7	6	31	2		
32				32	2			32	7	7	7	32	2		2
33				33	2	2	2	33	7	7	6	33			

グラム編成の3つのサブクラスターから構成されている。専門内容のや新技術の学習と教材研究とは一体として考えられており、これらは教材の作成と結合し、更に効果的な指導方法の工夫と指導案作成に結合している。よりよい指導の根幹にはこれらの要件が必要との認識の表明と考えられる。これらはやがて物や場所、施設・機器の充実と関係する。これら2つのサブクラスターに加えてコース設定とニーズ把握を中心とす

るサブクラスターがある。この周辺部分にはプログラムの編成、予算がある。第1クラスターは2つのサブクラスターで構成されている。1つは業界、企業、地域、個人との交流や課題解決への援助が中核にあるサブクラスターである。これは直接的には募集や選考と関わっている。もう1つのサブクラスターは施設の将来構想、会議の企画運営、体制整備である。

このように3つのクラスターで職業訓練指導員の業務を捉えていることがわかる。

4. 討 論

4-1. 職業訓練指導員の業務を構成する因子

職業訓練指導員の業務を構成する因子として図2に示すような4因子が見いだせた。この傾向は過去も現在も未来も差はあまりなかった。最大の因子は指導と評価因子であり、指導員業務の主要部分として位置づく。また、学習者対応因子という学習者個人への対応がこれに続いてい

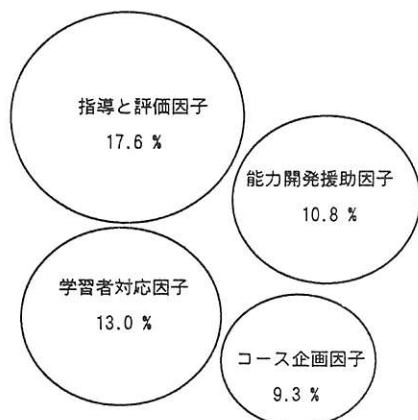


図2 現在の指導員業務の因子構造

る。訓練の改善やレベルアップの源泉がここにあることを反映していると考えられる。何よりも職業訓練指導員が学校教員と異なる業務は能力開発援助因子とコース企画因子にある。単に指導して送り出すだけではなく、技術革新の進展、社会の動き、地域の要望・企業ニーズの変化、能力開発施設の再編整備の推進、学習者の多様化といった状況や環境に即応するという

使命を担っていることを裏付けている。従来、職業訓練指導員の業務がこのような方向に変化していると指摘はされていたが、本報告によってこのことを明瞭に示し得たと言える。

4-2. 職業訓練指導員業務の階層構造

職業訓練指導員の業務は関係性から階層化すると3つのクラスターに分かれていた。第2クラスターを2つに分けて捉えるとほぼ因子分析の結果と同様に把握できる。図1において「訓練ニーズの把握」は本来ならば第1クラスターの中に入るべきものと考えられる。しかし、この内容は第2クラスター、つまりプログラム編成の1つとして位置づいていることから、この訓練ニーズは具体的なコース開発を目指したニーズと捉えられる。第3クラスターにある「評価」の捉え方は学習者の評価もしくは学習管理としての評価になっている。つまり、訓練評価の一面面を捉えたものと考えられる。訓練評価は訓練に関わるさまざまな事項の改善や向上につなげることを含んでいるが、ここでは見いだせない。

図1に基づいて別の観点から描いたものが図3である。図においてグレーの円はそのクラスターで最も相関の高い内容である。矢印は結合関係を示している。この図によって職業訓練指導員業務の全体像が把握されよう。例えば、職業訓練指導員業務で「指導を充実させたい」と考えるときには次のような行動をとることが予想できる。まず、新技術や専門内容を学習したり教材研究を充実させたいと願う。そしてそれを具体化させるために教材作成や効果的な指導方法の工夫を行おうとするだろう。さらに具体的にするために訓練の改善や授業の実施にその意図を反映させるように努力が払われる。一方、これらの行動と同時に施設設備などの充実にも力を投入することになる。このことは結果として予算との関係があり、場当たりの解決がつかないことが多いものである。このような現実対応を中心にした方法ばかりでなく、新たなビジョンや

構想との関わりで整備して行く方法も描いている。これは1つの推論に過ぎないが、このような全体図の明示は指導員業務の推進や理解にとって有用に機能すると思われる。

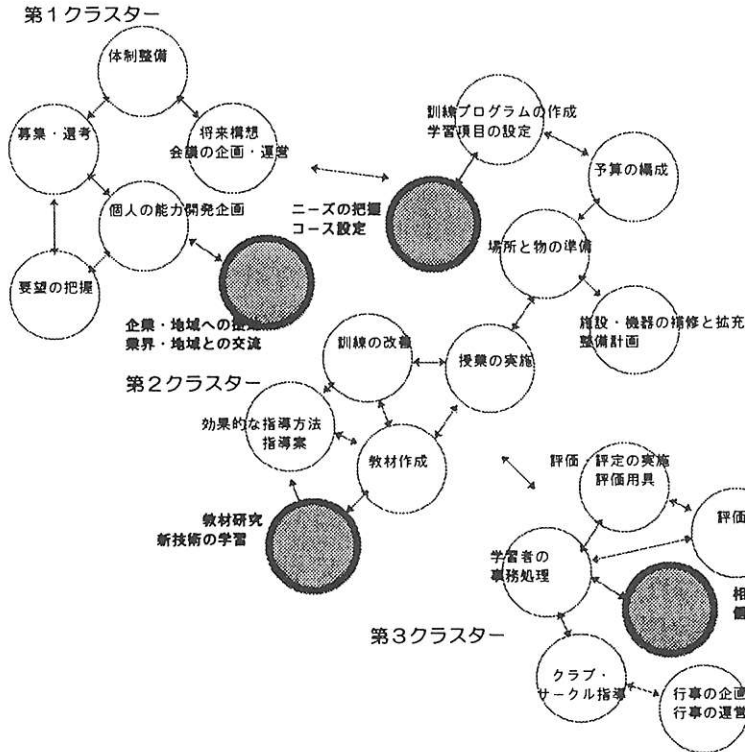


図3 クラスタ分析による職業訓練指導員業務の全体像

職業訓練指導員の業務調査の結果を多変量解析によってその構造について検討を行ってきた。今後は施設による全体像の比較検討を進めて行きたいと考える。

調査にご協力いただきました関係機関の方々に感謝申し上げます。

文献

- (1) 田中萬年・村瀬 勉「職業訓練指導員養成体系の再編成に関する試論—新しい業務に対応する指導員を視点に—」, 職業能力開発研究, 第12巻, pp.55-75, 1994.
- (2) 労働省職業能力開発局編「職業能力開発関係法令集」, pp.146-147, 1993.
- (3) 労働省職業能力開発局編「改訂職業訓練における指導の理論と実際」, 職業訓練教材研究会, 昭和50年.
- (4) 「職業訓練指導員の業務調査」は職業能力開発大学校内に設けられた指導員業務のあり方検討委員会「指導員業務調査作業部会」で1993年5月～1994年3月の期間に行なわれたものである。研究成果は職業能力開発大学校研修研究センター調査研究報告書, No.72, 1994. にまとめた。作業部会メンバーは森 和夫, 田中萬年, 小原哲郎, 荒 隆裕, 作成一郎, 高見利輝, 新井吾朗, 矢田義明, 鈴木直樹, 平川政利, 石橋泰彦, 香川 繁(敬称略)である。
- (5) 森 和夫他「職業訓練指導員の業務に関する調査—過去と現在と未来—」, 職業能力開発大学校研修研究センター調査研究報告書, No.72, 1994.
- (6) 森 和夫, 田中萬年, 小原哲郎, 荒 隆裕, 作成一郎, 高見利輝, 新井吾朗, 矢田義明, 鈴木直樹「職業訓練指導員の業務に関する調査(1)(2)(3)」, 産業教育学研究, 第25巻, 第1号, pp.9-14, 1995.
- (7) 調査対象の名称や内訳は職業能力開発大学校研修研究センター調査研究報告書, No.72, 1994. に詳細に記載している。

(もり かずお 職業能力開発大学校 指導学科)

The Content and The Structure of Vocational Training Instructor's Work

— Factor Analysis of Investigation Result of Vocational
Training Instructor's Work —

Kazuo MORI

The content of the work of the vocational training instructor has been discussed so far. However, it was only discussed in abstract terms in most cases. Discussions from specific aspects were rare. The structure of the content of the work has not been examined from the point of view of the ability. Then we decided to clarify it by applying the multivariate-analysis to the investigation result.

We selected 22 facilities with the training results for 10 years or more as the investigation objects. The investigation was conducted from October 1993 to February 1994. We calculated the factor scores of the samples and analyzed these scores by the cluster analysis.

The content of the work of the vocational training instructor is composed of the following four factors. They are "instruction and evaluation factor", "learner handling factor", "HRD support factor", and "course plan factor". There were few differences among the past, the present, and the future in this tendency. This tendency was pointed out so far but this report clarified it demonstratively. Moreover, the content of work was divided into three clusters when hierarchized.